

“大切な花”を咲かせよう



子どもの発達支援センター
つつじが崎学園

保育所等訪問支援通信NO. 29-1

桜が綺麗に咲き誇る中、平成29年度がスタートしました。今年度も保育所等訪問支援への御理解・御協力を宜しく申し上げます。さて、今年度の通信のテーマは「生活動作のサポート」です。園生活の中で苦手なことを“できる！”に変える支援方法を一緒に考えていきたいと思ひます。第1弾は食具の使い方・練習法についてです。



「成長に合った食具を使おう！」

子どもの発達に合わせて食具を使うことでよりスムーズに上達します。まずは現在のお子さんの食べ方をチェックしてみましょう！

スプーンとフォーク

食べ方の成長としては、まず手掴み食べから始まります。手掴み食べを十分に経験することで指の機能や物を口に入れる感覚等を習得します。人差し指と親指の先で物を摘まめるようになった頃からスプーンを握り持ちして掬って食べられるようになります。最初は食べ溢しも多いですが、手先や手首、腕、上半身の機能が食経験や制作やアスレチック等の日々の遊びを通して徐々に高まっていき、上達していくのです。

《持ち方の発達 どんな持ち方をしているのかな？》



上からの握り持ち



下からの握り持ち



三指持ち

こんな時はどうするの？日常でできる原因別サポート法



三指持ちが上手に出来ない
指先で物をつまめない



◎力のコントロールが苦手なのかな！？

力が弱かったり、入り過ぎてしまうことで上手く持てなかったり、操作出来ないことがあります。力が弱い場合は洗濯ばさみ等で指先の遊びが◎入り過ぎはジェンガや粘土遊びで力の抜き方を学びましょう。



上手に掬えないから
片手で手掴みもする



◎身体イメージが捉えにくいのかな！？

どのように食具を動かしたら良いのか分からないので、上手く掬えず、手掴みになります。食事はプレートではなく、小鉢等に取り分けて食べることが◎掬う際にスプーンが壁に当たり、掬い易くなります。

おはし

お箸はスプーン・フォークの三指持ちが出来ようになってから練習を始めると上達が早いです。しかし、手の機能が未発達の時でも大人や友達の真似をして使いたがる時がありますよね。その時は、子どもの意欲を大切にしながら摘みやすい物で練習して成功体験を増やし、自信へと繋げていきましょう。

参考書籍：「手が「できる」にかわる！発達が気になる子への生活動作の教え方」 編著◎鴨下賢一 著◎立石加奈子・中島そのみ

補助箸のおはし

最近は多くの種類の補助箸がありますね。リングのついた補助箸は、手を閉じたり開いたり（グーパー）することで箸を動かします。その為、開く時に親指を開く方向に動かす癖がついてしまいます。又、トングの様にバネの付いた箸は、本人の意思に関係なく自動的に開くので、箸を開く動きの練習には向きません。補助箸は決して悪いものではなく、子どもの発達に合ったものを使うと、上達する手助けにもなります。使う際には子どもに合ったものを選びましょう。



吉岡かよ



内藤知子



山本かほり

児童発達支援センター つつじが崎学園

保育所等訪問支援

〒400-0013 山梨県甲府市岩窪町614番地

Tel 055-251-7678

Fax 055-251-7679

Mail naito@tutuji.or.jp

担当：吉岡かよ 内藤知子 山本かほり

